



呉竹文庫

文化の香り漂うやすらぎの里

KURETAKE
BUNKO

呉竹文庫のあらまし



設立者
熊田 源太郎

呉竹文庫は、旧北前船主通称「熊源」の屋号で知られた熊田屋分家二代目源太郎氏が、自らの蔵書を大正4年4月から一般に公開していたが、大正11年2月私財を投じて、財団法人呉竹文庫を設立し、私設図書館としての形態を整え、広く地域文化活動の拠点としての役割を果たしてきた。

呉竹文庫設立の動機について、源太郎氏は、大正11年刊行の「呉竹文庫図書目録」の自序で次のように述べている。「私が弱年のとき父を失い、周囲の事情のため郷里を離れて遊学することを阻止せられました。しかし、知識欲をいかにしても制することができないので、いたずらに諸書を購求して乱読し、わずかに慰めておりました。これが私の蔵書の起因であります。……」

熊田家は代々、回漕業・鉾山業などを営んで財を築き、かつては県下有数の大地主として名を成した。

本文庫の創立者 源太郎氏(幼名 源一郎)は明治19年に生まれ、明治36年17才のとき



利用案内

開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
定例茶会を開催しています。(午前10時)

休館日

毎週月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は、その翌日)
年末年始、資料展示替え・燻蒸の期間

入館料及び使用料

一般／310円(団体200円)
中学生以下および障がい者手帳持参者とその介助者1名／無料
※団体とは、代表者または、責任者を有する20人以上の集まりです。
※施設の使用については、受付でお申し込み下さい。
尚、施設の使用料は、別に定めてあります。

アクセス

JR小舞子駅より徒歩で10分



お願い
■館内での撮影はできません。
■書架の図書・展示品には、手をふれないで下さい。
■資料の利用(閲覧・撮影・模写等)を希望される方は、職員にお申し出下さい。
■指定場所以外での飲食はできません。
■敷地内禁煙となっています。

呉竹文庫 〒929-0217 石川県白山市湊町ヨ146番地
☎(076)278-6252 FAX(076)278-6289

父 初代源太郎の他界により若くして家業を継ぎ、実業界に身を投ずることとなった。

生来向学心に燃え、隠れた篤学の士であったが、実業家としても倉庫業・運送業・銀行業・北海道における農場経営など広い分野で活躍し、多彩な手腕を発揮した。

また、一方常に小作農民と融和し、協力して稲作の改良に務め、さらに地域青少年の育英のために資金を援助するなど、当時としては進歩的な考えの持ち主であった。

氏は、大正12年より昭和2年までの4年間、湊村村長を勤め、さらに昭和9年再任し、翌年世を去るまで地方行政に貢献した。昭和9年病を得て治療の結果一時回復したが、翌10年1月12日数々の業績を残し、49才の若さで惜しまれながら生涯を閉じた。

熊田一家は、大正時代より金沢市池田町に居住していた。この母家は、別宅として昭和3年～4年にかけて建てられたものである。以前は、現在の庭園の場所に道路に面して北前船主らしい広大な建物があつた。

戦後半ば休館状態にあつた本文庫は、嗣子卓郎氏の篤志により、平成2年旧美川町(現白山市)が運営の主体となり、創設者の遺志を継いで博物館的な施設として再生した。以来、教養・研究等に資するため施設の保存と公開、蔵書や美術品・古文書等資料の保管と展示、その他文化活動等によって市民の利用に供している。

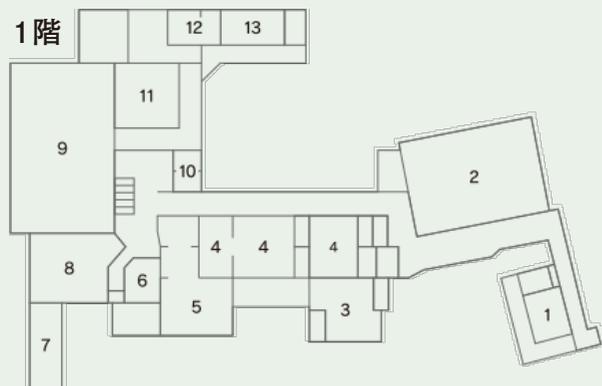


熊田源太郎 胸像

今も受け継がれています

文化活動の場として

貴重な資料が並ぶ呉竹文庫は



- 1. 呉竹庵
- 2. 展示室
- 3. 白樺の間
- 4. 和室(茶室)
- 5. 事務室
- 6. 玄関
- 7. 資料整理室
- 8. 閲覧室
- 9. 書庫
- 10. 便所
- 11. 休憩室
- 12. 浴室
- 13. 土間
- 14. 会議室
- 15. 資料保管室
- 16. 書斎
- 17. 菊の間

敷地面積 / 1,396.66㎡ (423.23坪)
建造物面積 / 498.83㎡ (151.16坪)



一階書庫

この書庫は、約50㎡(15坪)の二階建ての土蔵で、2階には書斎・資料保管室がある。100年近く前の書籍も良く保存されている。13,863冊の蔵書は、明治44年石川県立図書館が全国に先がけて制定した十進分類法を基に分類され、1階と2階に分けて保管されている。大日本仏教全書(161冊)・大正新修大蔵経(85冊)など、仏教関係の図書が多い。他に新詩社系の歌集・雑誌など詩歌関係の図書も目立つ。

🚫 お願い / 書架の図書には手をふれないで下さい



一階展示室

この展示室は、33㎡(10坪)の2階建ての土蔵で、明治・大正時代には他に3棟の土蔵があった。ここは、源太郎氏が収集した美術品(書画・工芸品)、古文書(回漕業・鉱山業・藩政関係)、重要図書など貴重な資料を年数回入れ替え順次展示します。



二階書斎

階段・書斎は、けやき材が使われており、観音開の装飾・天井中央のいかりの模様・四隅の金箔張りの抱きみょうがの家紋などから北前船主、そして県下有数の大地主として栄えた熊田家の豪勢さがうかがわれる。この部屋に保管されている漱石全集、子規全集、鷗外全集、有島武郎全集などはほとんど非売品である。

🚫 お願い / 展示品には手をふれないで下さい

所蔵する主な美術品・古文書等目録

美術品

- ・明月記断簡
- ・歌切二首
- ・二条為世筆 古今和歌集
- ・源氏物語 夕顔の巻
- ・初夏の歌切
- ・歌切
- ・閑庭萩和歌短冊
- ・遠州候あやめ歌入分
- ・秋風の和歌色紙
- ・絹本著色 周茂叔図
- ・絹本著色 王昭君図

- 藤原定家(1162~1241)
- 藤原為家(1198~1275)
- 二条為世(1251~1338)
- 冷泉為相(1260~1328)
- 吉田兼好(1283~1350)
- 頓阿法師(1289~1372)
- 烏丸光広(1579~1638)
- 小堀遠州(1579~1647)
- 近衛信尋(1599~1649)
- 狩野常信(1636~1713)
- 同上

- ・小沢盧庵筆 すずき画賛
- ・本居宣長書簡
- ・秋景山水
- ・勝 海舟書翰
- ・懐紙
- ・絹本著色 山水瀑布図

- 小沢盧庵(1723~1801)
- 本居宣長(1730~1801)
- 中村竹洞(1776~1853)
- 勝 海舟(1823~1899)
- 岩倉具視(1825~1883)
- 山田敬中(1868~1934)

古文書

- ・村上周防守頼勝(天正8年より19年間小松城主)書状
- ・前田利長候書状
- ・前田利常候書状

その他

- ・百万塔 付陀羅尼及び台座
- ・大正天皇ご使用インキ壺
- ・舟額「晴天静」
- ・東本願寺玄関門寄進に対する光演上人礼状